

生命を生み出す母親は
生命を育て 生命を守る
ことをのぞみます

母親しんぶん

ニュース版

No.2

2026.2.26

日本母親大会連絡会 東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館内 (〒102-0084)
電話03 (3230) 1836 fax03 (3230) 1837 ホームページ<http://hahaoyataikai.ai.jp>



撮影 初沢亜利

第71回日本母親大会 in 宮城

2026年9月12日(土)～13日(日)

全体会記念講演 講師

猿田 佐世さんに決まる

ND 代表、上級研究員・弁護士(日本・ニューヨーク州)・立教大学講師・沖縄国際大学特別研究員。

第71回日本母親大会 in 宮城 第1回現地実行委員会が開かれる



2月15日、第1回現地実行委員会を、日本母親の事務局から皆内事務局長、寺川・倉持両事務局次長を迎え、現地からは100名を超える参加者で開催することが出来ました。

仙台はこの日最高気温18度、4月並みの気温でしたが、3時間に及ぶ話し合いはそれ以上の熱さのものとなりました。現地実行委員長は、佐藤郁子宮城県母親大会連絡会会長が務め、活動体制が整い、滑り出しです。

私たちは大会の意義を次の2つに集約しました。「母親大会の原点を語り、日本を『戦争する国』に絶対しない。憲法9条を守り、一人ひとりの命輝く社会をめざす」「東日本大震災から15年、被災地の今を伝え、災害から命が守られる社会をめざす」です。

この会議で、「大会をいかに多くの若い世代に伝えるか、そのための参加費や運動費をどう考えたらいいか、母親大会をこの情勢の中で皆さんに広めるとき、やはりサブテーマが必要ではないか、沖縄では選挙の次の朝も闘いを続けています。そこで頑張る人たちに誇れる大会にしたいです。」等の意見が出されました。

若者や子どもたちが今おかれている状況も話され分科会への切実な要望が出されました。会議の最後に、大山あけみ現地事務局局長がもう一度大会の意義を強調し、参加者もそれをしっかりと受け止めた第1回現地実行委員会となりました。

私たちが目指す第71回母親大会の意義

- 母親大会の原点を語り、日本を「戦争する国」に絶対しない。憲法9条を守り、一人ひとりのいのち輝く社会をめざす大会に！
- 東日本大震災から15年。被災地の今を伝え、災害から命が守られる社会をめざす大会に！

解散・総選挙のまっただ中の

関東ブロック学習交流会ひらかれる

関東ブロック学習交流会を2月7日(土)、栃木県宇都宮市で開催しました。

高市政権による許し難い解散・総選挙のまっただ

中、また雪の心配もある状況での実施となりましたが57名の参加でした。

学習会は、講師、三浦亜美さんによる「老けない人の“発酵・ミネラル”習慣」のお話で、若いも若きも、私たちが健康に過ごしていくための様々な情報を話してくださいました。参加者からも、「今後はミネラルを意識した暮らしを心がけていきたい」「自分で塩糍を作りたい」などの感想が寄せられました。

また、新しい日本母親大会連絡会事務局長の皆内マサ子さんから、これからの母親大会への熱い思いや東京母連が日本母親の事務局を引き受けた経緯と第71回大会の概略の説明がありました。各都県の連絡会からは、若い人に繋げるために工夫されていることなどが話され活動の交流もできました。

(栃木母親連絡会 福田典子)



2026年東京母親大会・西東京母親大会開かれる

「いのちの砦はわたさないー平和・人権・くらし・教育」
2026年2月1日、「2026年東京母親大会・西東京母親大会」をこもれびホール（西東京）で開催し、740人の参加で学び・交流しました。

松元ヒロソライブでは高市政権の風刺や国会議員の物まね、戦争によるPTSD（心的外傷ストレス障害）の話など、涙と笑いの中で平和の大切さを学びました。最後の日本国憲法になり切った憲法くん「今年で79歳になります」から始まったパフォーマンスは圧巻でした。「私をどう使うかは皆さんにかかっています」の言葉に重みを感じました。シンガーソングライター高橋ナナコライブでは澄み切った声でいのちをいつくしみ憲法の大切さを歌ったオリジナル曲を楽しみました。記念講演は「日本の農業を守るために今、私たちができること」と題して千葉県農民連常任委員齋藤教子さんのお話でした。日本の農業政策が、

「防衛予算最優先」で農業を衰退させてきたこと、さまざまな補助金を出して農家を守っているスイスの違いを、農業従事者としての立場から具体的な例を挙げて報告されました。「農業は太陽、水、土、微生物が必要、農業ほど自然を大切にした循環型のものはない。本来の農業をやれば続けていくことができる」と強調されました。運動の交流では15団体から訴えがありました。高校生平和ゼミナールの外務省への署名提出、若者が核兵器廃絶の運動を担っていく決意の発言に大きな拍手がおきました。



母親大会の歴史と意義を学び、決意を新たに 2026年日本母親大会四国ブロック学習交流集会



2026年2月14日(土)・15日(日)に、香川県高松市で日本母親大会四国ブロック学習交流集会が行われま

した。四国各県から75名が参加しました。

1日目は、四国各県から、それぞれの県での母親運動の取り組みが報告されました。その後、前日本母親大会代表委員八巻暁美さんを講師に「母親・女性たちの願いとともに発展し続けている母親大会・母親運動」のテーマで学習

会を行いました。その後、四国各県の取り組みと八巻さんのお話についての討論を行いました。

2日目は、前日に続き学習会の時間を取り、八巻さんから前日の討論を踏まえてさらに詳しいお話を伺い、日本母親大会や各県の母親大会のあり方や方向性を討論しました。

母親大会の歴史や意義を改めて学習することで、世界が日本が戦争へと向かっている今こそ、母親運動を大きくする必要があり、母親大会は続けなければならないと決意を新たにすることができました。

1日目の夜は、夕食交流会を行い、各県からの出し物もあり、楽しく交流することができました。

(香川県母親大会事務局長 溝渕 千恵美)

新事務局本格スタート

2月2日より新事務局が日本母親事務局に移動して本格的に動きだしました。

2月は各地でブロック交流会議が開催され、関東、四国の会議に参加しました。

15日宮城県第1回実行委員会に事務局3名で参加いたしました。会場あふれる参加者の熱気に圧倒されました。たくさんのご意見をお寄せいただき身の引き締まる思いです。会場の下見は徒歩や電車、バスで道を覚え、団体バスの乗降場所を確認しました。全体会会場の音響スタッフとの打ち合せは宮城の事務局と一緒に行いました。

ホテルもJTB仙台に協力していただきお知らせ出来るところまでできました。全体会の講師も決まり、分科会の準備を始めました。前大会の資料を見ながら手探りで進めています。ホームページもリニューアルしました。皆さまご意見を得てより良い大会にするために頑張ります。 日本母親大会事務局